

〔7月20日／年間第16主日〕

〔説教〕

主イエスは今、エルサレムに向かって歩いておられます。  
エルサレムで、主は十字架上で苦しみを受けて死に、復活されます。  
そして、弟子たちが、主とともに歩いていきます。この弟子たちは、さまざまな苦難を体験しながら、体験しているからこそ、いつか真の幸いが実現するという希望に生かされている弟子たちです。今の苦難が、やがて訪れる神の国という喜びとなるという、希望の道を歩んでいる私たち、希望の巡礼者です。  
福音記者ルカが、「一行が歩いて行く」と伝えている旅は、私たち教会の歩みであり、一行とは、希望の巡礼者である教会のことであると言えます。

この教会の歩みに、二人の女性が加わります。マルタとマリアです。  
マリアは、静かに座って、主のみことばに、熱心に心を向ける女性です。  
恵みのみことばに満たされたマリアは、この大きな恵みを、自分一人で満足しないで、まわりの人と分かち合うことでしょう。主のみことばを、熱心に聞けば聞くほど、この恵みを分かち合いたいという望みは、大きくなるはずです。  
今静かに座っているマリアは、力強く、生き生きと、みことばを宣べ伝える福音宣教者となることでしょう。  
今日、主イエスの一行に加わっている私たちも、マリアのようになるよう励まされています。私たちも、マリアのように、みことばを聞く喜び、みことばを分かち合う喜びに満たされるよう招かれているのです。

マリアのように、安心して、喜んで、みことばを味わうために、「いろいろのもてなしのためせわしなく立ち働」く人が、私たちには必要です。  
皆がマリアのようになり、座りこんでしまったら、集会は成り立ちません。  
私たちには、マルタが必要なのです。  
コロナ禍の時、私たちは、私たちの日常生活を支えている、エッセンシャルワーカーと呼ばれる人たちに感謝しました。  
マルタは、私たちの教会生活を支えているエッセンシャルワーカーなのです。あたりまえのように行われている教会生活は、あたりまえのことではないのです。たくさんのマルタたちの働きに支えられているのです。

マルタは、よく働きますから、時として、自分の働きをわかってほしいと望みます。自分も、マリアのように、ゆっくりとしたいと思います。こうした願いや思いは、人間として当然のことです。マルタの素晴らしいところは、自分の願いや思いを、そのまま、主イエスに打ち明けたことです。マルタのように働けば、誰でも疲れます。なぜ私だけがという思いが起こります。ですから、マルタが主に不満を告げることは、悪いことではなく、とても良いことなのです。そして、私たちは今日、この不満を、毎日の祈りの中で、安心して打ち明けられるように促されています。私たちは、祈りと聞くと、神に賛美と感謝をささげなければならないと思いがちです。もちろん、賛美と感謝は大切な祈りです。しかし、祈りとは、自分の思いを、そのまま神に打ち明けることです。ですから、自分が苦しい時に、神にこそ、苦しいと言っても良いのです。くやしい時、腹が立つ時こそ、神に打ち明けて良いのです。まわりの人に言えないことでも、神には、神にこそ、そのまま伝えて良いのです。神は、私たちが語ることのすべてを聞いてくださいます。私たちの、すべての思いを、感情を、そのまま受け入れてくださいます。

主イエスは、マルタの、包み隠さない思いを、そのまま聞かれます。そして、「マルタ、マルタ」と呼びかけられます。主が、マルタに対して、深い愛をもって、優しく語りかけられるのです。この後の、主の言葉は、次のように言い換えることができるのではないのでしょうか。「マルタ、マルタ、あなたは、みんなのことを、すごく大切にしている。でも、みんな、私のことをわかってくれないと悩んでいる。でも、安心しなさい。あなたは、みんなの必要に、しっかりと応えている。マリアは、あなたのおかげで、安心して、座っていられる。私は、あなたの、大きな愛が、よくわかっている。あなたの愛をつらぬきなさい。愛することができる喜びを味わいなさい。」

ルカは、マルタがどのように答えたかを伝えていません。答えるのは、今日、こうして集まっている私たちだからです。マルタのように、教会のため、社会のために働いておられる皆様だからです。私たちは、今日、この世界で働いているマルタたちに心から感謝しましょう。感謝し合いましょう。そして、皆で、マルタのように、人びとに仕えましょう。希望の巡礼者は、マルタのように、仕えることで、この世界に、生きる希望をもたらします。主イエスの一行に加わって、マルタとマリアのように、希望の巡礼の旅を続けていきましょう。